

#### I. アルベニス: アストゥリアス《伝説》

《スペイン組曲》は、全 8 曲からなるアルベニス初期のピアノ独奏曲集。その半分の 4 曲は手つかずのまま、タイトルしか残されなかったが、アルベニスの没後、出版社がこの 4 曲に他の楽曲をあてがって楽譜を出版。本曲は、もとはピアノ独奏組曲《スペインの歌》作品 232 の第 1 曲「前奏曲」である。

#### F. モンポウ: 鳥の歌

《歌と踊り》は、ほぼ半世紀以上にわたって書き継がれた作品群。各曲はゆっくりとした「歌」と、それに続く躍動的な「踊り」から構成されている。全 15 曲中 13 曲はピアノ曲だが、第 13 曲は、ギターの名手ナルシソ・イエペスとの交流から生まれたギターのための作品。前半の「歌」はカタルーニャ民謡「鳥の歌」から採られている。

#### M. リョベート: 《10 のカタルーニャ民謡集》より

カタルーニャのギタリスト、ミゲル・リョベートはタレガの門弟であり、クラシック・ギターの巨匠セゴビアの師。そのリョベートが故郷カタルーニャに古く伝わる民謡をクラシック・ギターのために編曲した《10 のカタルーニャ民謡集》から、本日は 4 曲お届けする。なかでも有名なのは「アメリアの遺言」で、リョベートの代表作である。

#### G. カサドの作品

20 世紀前半を代表するチェリストの一人ガスパール・カサドもカタルーニャの出身。その希少なギター作品は、アンドレス・セゴビアとの交流から生まれた。「カタルーニャの伝説」は、おそらく 1952 年以前の作で、有名なカタルーニャ民謡が用いられている。「カタラネスカ(カタルーニャ風)」は、カサドがまだ 20 代の頃、1922 年の作。カタルーニャの伝統舞踊サルダナのリズムが印象的。

#### F. モンポウ: コンポステラ組曲

カタルーニャの州都バルセロナ出身で、同地で没した作曲家フェデリコ・モンポウが、1962 年に作曲したギターのための作品で、セゴビアとの交流から生まれた。「コンポステラ」とは、スペイン北西部ガリシアにある歴史的な街サンティアゴ・デ・コンポステラのこと。エルサレム、バチカンと並んでキリスト教の三大巡礼地の一つであり、巡礼の終着地でもある。雨に煙るガリシアの古都を思わせる「前奏曲」、厳かな合唱のような「コラーレ」、やさしく眠りに誘う「子守唄」、現代的な響きを感じさせる「レチタティーヴォ」、曲集中もっとも人気のある「歌」、そしてガリシアの伝統的な踊り「ムニエイラ」の全 6 楽章からなる。